

美しい山形・最上川フォーラム 令和6年度（第23回）通常総会議事録

1 日 時 令和6年6月28日（金）13時30分から15時20分まで

2 場 所 山形県村山総合支庁本庁舎 2階 講堂

3 出席者 出席 計50名（司会除く、別紙名簿のとおり）

4 議事の経過

13時30分、司会を務める一般財団法人山形県理化学分析センター松本義文さんが開会を宣言した。

○ 柴田洋雄会長あいさつ（要旨）

- ・出席者への謝辞
- ・第23回総会ということで、設立後23年目を迎えた。
- ・「環境問題」の中でも、できるところから活動範囲を広げていきたい。
- ・教育機関と連携し、子供たちが参加できて子供たちの意見も吸い上げていきたい。
- ・本日は事業内容や予算などの議案を皆様に協議していただく。おかしいところは遠慮なくご発言をお願いします。

○ 知事あいさつ

（山形県防災くらし安心部 小泉篤次長が代読披露）

美しい山形・最上川フォーラムは、「美しい山形・最上川100年プラン」のもと、母なる川「最上川」を美しい山形づくりのシンボルに掲げ、水環境の保全や川が育む文化の継承、さらには最上川を活用した地域活性化の取組みを県全域で活発に進めてこられました。

フォーラムの様々な取組みは、企業や民間団体、学校、行政など多くの関係者の連携により行われており、まさに「オール山形」で地域の課題を解決する「協働」の代表的事例となっております。会員の皆様におかれましては、豊かな自然や文化を後世に引き継ぐために日々御尽力いただいております。深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

さて、足元の状況を見ますと、人口減少の加速、地球温暖化に伴う気候変動、不安定な国際情勢、資源価格の高騰や円安等による物価上昇など、時代は大きく動いております。

こうした時代の潮流の中で、環境保全、文化振興、地域経済の活性化など、本県の魅力や価値を活かしながら多角的に展開されるフォーラムの取組みは、県の基本目標である「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形」の実現に資するものであります。

昨年5月に新型コロナが5類に移行されたことを契機に社会経済活動が正常化に向かい、文化やスポーツ、観光面などの様々な活動も、コロナ以前に近い形で回復してきています。交流人口の拡大が一層期待されるこの機を捉え、山形の美しさや魅力をしっかりとアピールしてまいりますので、引き続き皆様の御理解と御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

結びに、次代を担う子どもたちや若者たちに、この美しい県土を引き継いでいくため、これからも力強い活動が展開されることを期待いたしますとともに、皆様の益々の御活躍を心から祈念申し上げます。

- 柴田会長が議長席に着き、協議を開始した。

議長が議事録署名人の指名について事務局に提案を求めた。

 - ・事務局長が、東北環境開発株式会社山形支店長 五十嵐英紀さんと、公益社団法人山形県水質保全協会常務理事 佐藤貢一さんに議事録署名人をお願いすることを提案し、異議なく承認された。

- 第1号議案 令和5年度事業報告及び収支決算（案）について
事務局長が以下の内容を説明した。
 - ・事業実施結果の総括として、新型コロナウイルス感染症が昨年5月に5類に移行したことから、活動再開と正常化の動きが広がりを見せている。企業や学校におけるSDGsの取組みが広がっていることなどを背景として、他団体や企業、学校、マスメディア等との連携を積極的に進めてきた。
 - また、法人移行を断念したことから、会長個人に責任が集中する体制を改め、会長を補佐し集团的に責任を分担して運営にあたる「役員会」を設置した。
 - ・活動の1つ目の柱、将来を担う世代の育成については、フォーラム設立当初から実施している身近な川や水辺の健康診断、スポGOMI大会が活動の中核をなしている。これに海岸漂着物やマイクロプラスチック問題の啓発を組み合わせ実施している。
 - 身近な川や水辺の健康診断は、国土交通省の山形・酒田・新庄の各事務所からの御支援、水質保全関係団体及び企業からの御協力などにより実施してきたところ、感謝申し上げる。前年度に比べ、特に大人数で参加していた学校関係の実施がなかったため、実施団体数・参加人数・調査個所数とも減少した。昨年の夏は猛暑だったため、熱中症対策のため学校関係が実施いただけなかったと考えている。
 - スポGOMI大会は、海岸漂着物対策の普及啓発の一環として実施しているが、地域や学校、企業からの開催要望が増加しており、2,141名もの参加をいただいた。海岸漂着物問題の普及啓発については、学校等での出前講座を実施したほか、様々な施設やイベントでの展示、海と日本プロジェクトへの参加など、あらゆる機会をとらえて取り組んできた。
 - それぞれの実績については別紙資料を参照願う。
 - ・2つ目の柱、地域の環境保全と安心づくりについては、美しいやまがたクリーンアップキャンペーンが中核をなしている。前年度より参加団体は減ったものの参加人数は増えている。また、山形河川国道事務所からの委託事業として、最上川上流におけるクリーンアップ活動を実施した。散乱ごみの発生抑制対策の推進では、県の海岸漂着物対策推進協議会に最上川フォーラムとして参画するとともに、川ごみ団体との連携として全国川ごみネットワーク主催の「第9回全国川ごみサミット」に参加している。
 - ・3つ目の柱、環境や文化を地域活性化に活かすについては、夢の桜街道づくりがメインの活動で、要望に基づいて樹木医を派遣し桜の育成に関する調査・指導を行っている。桜守育成講座は緑の環境づくり推進事業助成金を活用して鶴岡市、金山町で実施した。
 - 桜や水辺の写真を活用した情報発信として、啓発の内容も含めた展示会を3月下旬から6月にかけて市町村の御協力をいただいて実施した。
 - ・地域部会の活動については、置賜・村山地域部会の連携により、最上川にまつわる紙芝居を製作した。その他身近な川や水辺の健康診断、スポGOMI大会、桜守育成、啓発イベントにおける協力など、活動全般を支えていただいている。
 - ・会員拡大の取組みについては、会員金融機関の協力を得て会員募集キャンペーンを実施、会員の勧誘に取り組み36会員の新規加入をいただいた。
 - ・公益社団法人日本河川協会令和5年度河川功労者表彰を受けた。9月12日、県平山副知事を表敬訪問し、当フォーラムへの理解を深めてもらった。

・当フォーラムの活動を支援していただいた委託事業、助成事業、連携事業は記載のとおり。関係各位に感謝申し上げます。

・収支決算（案）については、第1号議案-2に記載のとおり。

特徴的事項について説明すると、収入の部、会費収入については、当初と比べて17万円ほど減少した。県補助金は、事務局長人件費補助。最上川上流清掃活動については、山形河川国道事務所からの委託によるもの。積立金については、年度当初、会費や助成金等の収入が入ってくるまでの資金不足に対応するために積み立てているもの。決算額合計は、17,160,811円となった。

支出の部では、費目全般にわたり経費の節減に努めたところ。積立金570,000円の使途についてはただ今申し上げたとおりですが、期首残高と比較すると136万円のマイナスとなっており、運営基盤としてはかなり厳しい状況にある。

決算額合計は、17,103,784円となった。

収入の部から支出の部を差し引いた額、57,027円が令和6年度への繰越金となる。

議長が各部会長に対し補足説明等を求めたところ、以下の発言があった。

（菅原清流・環境対策部会長）課題は環境活動で、いろんなところで同時に活動されており、フォーラムの活動が埋没している。今後、事業の方向性を見定めながら、広がりや深さを意識し、改善を加えながら継続していきたい。

（本間最上川文化・地域経済活性化部会長）フォーラムの役割は、桜の維持管理。今まで植えてきた桜の展示会を開きたい。桜に興味を持っていただいて、経済活性化につなげていきたい。

大場健一監事が、監査結果について以下のとおり報告した。

・5月に会計監査を実施した。帳簿及び証拠書類その他を精査した結果相違なく、事業の内容について監査した結果適正であったことを認める。

議長が、第1号議案の令和5年度事業報告及び収支決算（案）について出席者に諮ったところ、全員異議なく原案のとおり承認された。

○ 第2号議案 令和6年度事業計画及び収支予算(案)について

事務局長が以下の内容を説明した。

・学校や企業、地域団体などSDGsへの取り組みや環境問題への関心が高まっており、新規開催のイベントも増えたため、時期が重ならないよう他団体との情報共有、連携を尚一層図っていく必要がある。また、行政や企業の協力をできるだけ多く呼びかけていくこと、助成金の確保や活用、他団体との連携にも努めていく。なお、屋外での活動が主となるため、熱中症対策など異常気象によるリスクにも対応していく。

・活動の第一の柱である将来を担う世代の育成については、身近な川や水辺の健康診断、スポGOMI大会、海岸漂着物やマイクロプラスチック問題等の啓発を中心に引き続き取り組んでいく。これまでの実施結果と今後の予定については別紙資料を参照願う。

・第二の柱である地域の環境保全と安心づくりについては、美しいやまがたクリーンアップキャンペーンを引き続き推進すること、散乱ごみの発生抑制対策として普及啓発活動に取り組むとともに、県の海岸漂着物問題推進協議会における発生抑制対策、発生源対策にも取り組んでいく。

・第三の柱である環境や文化を地域活性化に活かすについては、地域の要望に基づき桜の

維持管理活動を支援する。桜や水辺の写真の巡回展示は、今年度既に実施したところ。昨年度までに製作した紙芝居の上演、貸出しの積極的な発信を行い、動画の活用を促進する。

・各地域部会の活動としては、これまでと同様、身近な川や水辺の健康診断、スポGOMI大会、桜守育成などの活動に協力いただくほか、地域の実情に応じた独自の創意工夫による活動に対し支援していきたい。

・会員拡大の取組みについては、今年度も会員金融機関の御協力のもと4月から7月にかけて会員募集キャンペーンを実施したところ。今後も改めて金融機関・県・市町村の協力を得て会員募集に取り組む。法人会員に対しては、会費を1万円以上に増額して下さるよう、引き続き要請を行っていく。

・今年度予定している委託事業や助成事業、連携事業は記載のとおり。

・令和6年度収支予算（案）については、第2号議案－2に記載のとおり。

収入の部、会費収入については、前年度実績を踏まえて積算。積立金については、決算でも触れたが、136万円のマイナス。山形信用金庫様から10万円の寄付をいただいた。予算額合計は、14,708,000円。

支出の部、運営費及び事業費とも、収入見合いの前年度当初予算並みで積算した。予算額合計は、収入の部と同額の14,708,000円。

積立金の部は、期首残高はフォーラム基盤強化積立金11,172円、積立金が570,000円となる。

議長が各部会長に対し補足説明等を求めたところ、以下の発言があった。

（菅原清流・環境対策部会長）活動は前年度からの継続事業ですが、予算に制限されて活動が縛られざるを得ない。予算的にクリアできるような活動にしていきたい。

（本間最上川文化・地域経済活性化部会長）予算がないと動けないのが現状なので、会員一同、できるだけ会員を増やしていくのが一番。全会員のご協力のもと、フォーラムの事業を続けていきたい。

議長が出席者に対し意見を求めたところ、以下の発言があった。

（本木勝利氏 置賜地域部会）事業計画に関連して、意見というよりお願いです。外来種で生態系をかき乱しているブラックバスの悪影響が、白鷹町の最上川において拡大している。白鷹町では、1匹釣りあげる毎に300円の補助をだしてくれているが、せっかく釣り上げたブラックバスをそのまま業者に処分をお願いするのはもの足りないため、最上川229ネットワークとしてひと工夫してみようとなった。このブラックバスを乾燥させて魚粉にし、当面は、里芋畑に肥料としてまいて、その里芋を山形名物の芋煮会に活用してはどうかと考えている。この運動を、白鷹町だけでなく最上川流域に広げていくことになれば、環境対策にもなるし最上川フォーラムの出番だと考え、この取組みに最上川フォーラムの援助を期待しているところです。

（今野正明氏 置賜地域部会）以前からブラックバスの調査を行っており、白鷹町から観光交流という形で予算化していただいた。その結果、すばらしい実績をあげている。最上川からできた魚粉を県内で処理したいと探したところ、鶴岡高専の先生が相談にのってくれた。魚粉にするには莫大な経費がかかるが、コスト低減のためビニールハウスで作ったところ、経費を削減することができた。流域全体でやれば面白いと思う。交流人口も作れる。最上川フォーラムでやるべきだとの意見もいただいている。県の水産振興課や環境保全型農業の担当からもご指導をいただいている。自信をもって進めていきたいので、最上川フォーラムの皆さんの力をお借りしながら、この事業を成功させていきたい。

⇒（議長）フォーラムとしては、置賜地域部会の事業として採択されれば対応できると思う。普通は、今の話のところまで立ち上げるのが難しいのに、この先はうまくいく感じがする。フォーラムには、例えばブラックバスを買ってくれる市町村を増やして欲しいとか、具体的に何をして欲しいのか、何をしたいのかを言ってくれれば、フォーラムとして協力できることが見えてくる。

（本木勝利氏 置賜地域部会）この構想を関係団体に話をしてきたところ、少しずつ理解を得ているが、認知度の高い最上川フォーラムが音頭をとって、この構想を下支えしていただければ、もっと広くみんなの支持が得られると考えている。芋煮会は面白い材料になってくると思っている。

（今野正明氏 置賜地域部会）当然地域部会としても取り上げていくべきと考えているが、フォーラムで何ができるかを探り当てていただければと考えている。

⇒（議長）フォーラムとしては、地域部会でこういうのをやりたいが手に余るので、もう少しきちんとして欲しい等、具体的に言ってもらって対応しやすい。最初から地域の協力を求めるためにフォーラムの名前を使うのではなく、フォーラムで何ができるか一緒になって相談していきたい。後から具体的にどういったことをしたいのか事務局長が聞いて、フォーラムとして何ができるか考えていきたい。

⇒（事務局長）承知いたしました。

議長が、第2号議案の令和6年度事業計画及び収支予算（案）について出席者に諮ったところ、全員異議なく原案のとおり承認された。

○ 第3号議案 規約の改正（案）について

事務局長が以下の内容を説明した。

① 改正理由

積立金が枯渇してきている現状に鑑み、将来を見据え、当フォーラムの活動の持続的発展に資するため、法人会員の会費を増額することにより、運営基盤の強化を図るもの。

② 改正内容

法人の会員の会費を、年額一口3千円（一口以上）から年額一口5千円（一口以上）に増額する。施行日は本総会で承認が得られれば、令和6年6月28日とする。

⇒（議長）今入っている会員も本日から該当するのか。

⇒（事務局長）今入っている会員の方も本日から該当します。

議長が出席者に対し意見を求めたところ、以下の質問があった。

（五十嵐英紀氏 東北環境開発株式会社）令和6年度分の会費が変わるのか令和7年度分の徴収なのか確認したい。

⇒（事務局長）令和6年度からの分をお願いしたいと考えている。

（五十嵐英紀氏 東北環境開発株式会社）第2号議案-2の予算は、5千円で見積もっているのか。

⇒（事務局長）いいえ、会費の収入は従来の3千円で見積もっている。従って、増収になることを期待しているが、その場合は補正で対応したい。

⇒（議長）本来余裕があれば、来年度から該当すれば良いのだが、先ほどの決算内容のとおり財政逼迫しており、申し訳ないが今年度からの適用とさせていただいた。

（農林中央金庫山形支店 長南迪子次長）今年度予算を既に組んでいる法人が多いと思うので、増額分を払えないとなった場合はどのような対応となるのか。

⇒（事務局長）フォーラムとしてはお願いする立場ですので、規約どおり納入していただ

きたいが、退会するという選択肢でなく対応したい。

⇒（議長）3千円は払えるがそれ以上は無理という場合も、今年度についてはフォーラムとして受け入れます。

議長が、第3号議案の規約の改正（案）について出席者に諮ったところ、全員異議なく原案のとおり承認された。

その他、報告事項として、事務局長が会員の状況と役員会の設置について、以下のとおり説明した。

・令和6年6月20日現在の会員数は2,765会員（昨年2,935会員）となった。今年の退会者の理由として、高齢に伴い終活の一環として退会したいとの声が多かった。今後とも会員拡大に努めていきたい。

・役員会の設置については、令和5年12月7日に開催された第72回運営委員会で設置が承認された内容について、資料に基づき報告した。

○ 議長が出席者への謝辞を述べ、議事を終了した。

以上をもって全ての議事を終了したので、15時20分に司会が閉会を宣した。
（出席者から拍手）